

目次

- ・ 1996年度日本図書館文化史研究会 第13回研究集会報告
- ・ 1996年度日本図書館文化史研究会 総会報告
- ・ 編集委員会、事務局より
- ・ 研究例会

1996年度日本図書館文化史研究会 第13回研究集会報告

1996年度の研究集会・総会が7月13日（土）から14日（日）にかけて、大阪府立大学学術交流会館で開催されました。メインテーマは、“図書館思想の形成”。その概要は次のとおりです。

<1日目>

講演 ヨーロッパ近世における図書館思想の形成

天満隆之輔

ノーデの生涯について、その主著をたどりながら、ヨーロッパ近世の図書館思想の形成を論じた。

「魔術師かと疑われた偉人たちの弁護」（1625）は、懐疑主義の立場から、当時の宗教的疑惑を打ちはらう意義があった。パドヴァ大医学部留学後の「図書館建設のための提言」（1627）は、宗教戦争などで失われた資料を再生する動きを背景に、ノーデがある貴族の蔵書整理に関わったときに著したもの。現状を超えるものが図書館にはなければならない、との提言は当時大きな評判を呼んだ。

また、「教育の方法」（1633）は、教育書誌としての性格を持ち、このなかでノーデは当時の体罰によるしつけを批判した。「クーデターに関する政治的考察」（1639）は、政治の流れを予兆した書であった。

1642年、ノーデは当時のフランス宰相リシュリュー図書館を任せられ、その後マザラン図書館を任せられた。マザランの財産で刊本、写本を買い集め、“ノーデのあとには草木も生えぬ”といわれたという。晩年は、近代図書館の萌芽をつくりながら、政争に巻き込まれた。

発表1 文献展望：ギャリソン著『文化の使徒』の評価をめぐって

田口 瑛子

『文化の使徒』に関する書評や引用件数の多いことについてふれ、とくに「第4部 優しい技能要員」を中心に女性図書館員と図書館職の女性化について論じた。また、ギャリソンに対する批判をとおして、日本の女性図書館員に関する研究について問題提起した。

発表2 多摩地区の逐次刊行物をめぐる諸相
-都立立川“雑誌”図書館の活動を基軸に-

齋藤 文男

1970年代から90年代にかけて、東京・多摩地区における雑誌・新聞をめぐるサービスの変遷について論じた。80年代において、都立立川図書館（現、都立多摩）が、多摩地区の市町村立図書館に対し、雑誌図書館として画期的なサービスを展開したことを紹介し、同館の活動が次第に支持されていく過程を明らかにした。

発表3 ジョン・ハラムの公立図書館思想
-ドミニオン・カナダ（英語系）における公立図書館の発-

深井 耀子

ジョン・ハラムについて、トロントの市議員時代にオンタリオ州無料図書館法制定運動を開始、「ハラム報告」（1881年）を発表した経緯、トロント市立図書館への寄贈目録の分析をとおして図書収集家としての面、同館の蔵書構成、利用状況の分析から、彼の公立図書館思想について論じた。

<2日目>

発表4 韓国における公共図書館と読書運動

宇治郷 毅

1994年に制定された「図書館及び読書振興法」において、読書振興が公共図書館の任務のひとつとして明記され、法律化されたが、その背景には先進文化市民の育成（読書の生活化）をめざす、国民運動化への狙いがあるという。この運動はわが国の戦前の読書運動とは異なり、統制化をめざすものではないが、図書館の本質論の観点からは、検討すべき問題も多いと論じた。

発表5 図書館行政と整理政策、その結果を受容した整理のツール
-主に日本図書館協会に注目して-

志保田 務

図書館政策が整理方針、整理のツールに及ぼした影響についてふれ、なかでも政策・方針とツールの策定者としての日本図書館協会に注目した。日本における整理のツール（NDC、NCR、NSH→BSH）は、時代によって異なり、目録法にあつては国際重視、国内重視の傾向が交互に見られ、分類法では書架分類と書誌分類の考え方の交替現象がある、と論じた。

「総括討議」では、以上の発表をふまえ、活発な議論が展開され、寺田光孝がまとめを行った。

新しく設けられた、チャットコーナーでは奥泉和久が「日本近代図書館年表」作成の準備を進めていることを報告、会員に協力を要請した。志保田務は、日本図書館研究会が今年発足50周年にあたり、秋に記念の研究大会を開催することを紹介し、多くの参加を呼びかけた。石井敬三は、大原社研所蔵の、社会科学関係図書の調査について中間報告し、今後の研究を展望した。小川徹は、研究会のより一層の活性化をはかるため、研究例会での活発な議論を基礎に、将来は月例の開催、東京以外

での開催を期待したいと述べた。

司会：（1日目）前川和子、加藤三郎（2日目）阪田蓉子、山本順一、馬場俊明
研究集会実行委員：川崎良孝、阪田蓉子、馬場俊明 事務局：石井敬三

なお、当日のテープをご希望の方は事務局（中林）まで、ご連絡ください。

1996年度日本図書館文化史研究会総会報告

<議案>

1. 1995年度活動報告

①第12回「図書館史を考えるセミナー」の開催

1995年9月9日（土）－10（日）の両日にわたり、『石井敦先生古稀記念論集』の刊行を記念して、日本図書館学会と共催で開催。会場は法政大学、参加者は延べ180名。

②機関誌『図書館史研究』No.12(96.5)編集・刊行

③「ニューズレター」の編集・刊行

No.50(94.12) No.51(95.5) No.52(95.7) No.53(95.10) No.54(95.11)
No.55(96.2)

④研究例会

第1回 95.12.9 法政大学 発表者：山口源治郎、山本順一

第2回 96.3.16 国立国会図書館 発表者：田中久徳、奥泉和久

⑤運営委員会の開催

95.3.25、7.22、9.10、12.9、96.1.20、3.16

⑥その他

現在の会員数：124名（96.6.30現在、「ニューズレター」No.56付録を参照）

会費納入状況：95年度会費納入者 106名 96年度会費納入者 17名

なお、名簿上本年3月末現在の会員数138名であったが、最近3年以上にわたる会費未納者については、名簿から削除、整理した。また、95年度をもって正式に退会届けを提出した者は5名、一方本年度の新加入者は8名である（96年6月末現在）。

1995会計年度（1995.1-96.3）決算報告

1995年9月10日開催の本研究会総会において、会計年度を従来の暦年に代えて、4月から翌年3月までとすることが提案され、承認された。ただし、95年度は移行措置として、95年1月から96年3月までの1年3か月とすることが決まった。

その間、事務局が東京学芸大学の山口源治郎から国立国会図書館の中林隆明に変更したため、便宜上決算報告を事務引き継ぎ時点の95年10月をもって二分した。

第1期 (95.1.1-10.16)

収入の部

前年度繰越金	242,059
会費等 (94-95年度分) *	346,561
合計	588,620円

* 会費納入 94年度分88名、95年度分17名
(端数は預金利子を含むため)

支出の部

ニューズレター (No.50-52)	30,560
『図書館史研究』 (No.11) の入力費	15,000
同上買取費	157,212
(No.5-9:5冊、No.10:15冊、No.11:109冊)	
事務局費等 (通信費を含む)	12,012
繰越金 (第2期へ)	373,836
合計	588,620円

第2期 (95.10.16-96.4.1)

収入の部

会費 (95.11-96.4.1受領分)	
内訳 94年度 (22名)	66,000
95年度 (89名)	267,000
96年度 (12名)	36,000
雑費	
石井先生古稀記念論集刊行会からの寄付	164,808
郵便貯金利子	389
繰越金 (前事務局より)	373,836
合計	908,033円

支出の部

ニューズレター作成・発送費	
内訳 No.53-54(95.10-11)	40,620
No.55(96.2)	18,200
『図書館史研究』買取 (No.11:20部)	21,000
事務局費 (通信費、引き継ぎ経費等)	53,152
次年度への繰越金	775,061
合計	908,033円

監査報告

1995年度の監査の結果、帳簿の記入、事務処理が適正におこなわれていたことを報告します。

1996年5月30日

監査 池田 政弘 印
塩田 一徳 印

◇ 1995年度の活動報告・会計報告について、上記のとおり承認された。

2. 1996年度(96.4-97.3)活動計画(案)

- ①機関誌『図書館史研究』(仮称)No.13の編集・刊行(1996年秋刊行予定)
- ②「ニューズレター」の編集・発行(No.56-59の年4回を予定)
- ③第13回「図書館史を考えるセミナー」(大阪)の開催
- ④研究例会の開催(年3回程度を予定)
- ⑤運営委員会の開催(年4回程度)
- ⑥その他

1996年度(96.4-97.3)予算(案)

収入の部

費目	金額	備考
会費	318,000	96年度 3,000×106
雑費(利息)	600	郵便貯金・元加利子
前年度繰越金	775,061	
合計	1,093,661円	

支出の部

費目	金額	備考
事務局費	60,000	
会議費	20,000	運営委員会、会場使用料等
消耗品費	10,000	文具、用紙、コピー代等
通信費	20,000	郵便切手、宅配料等
交通費	10,000	
ニューズレター費用	80,000	
編集発行費	40,000	年4回
郵送料	40,000	年4回
機関誌刊行費用	372,000	

編集費	70,000	「図書館史研究」No.13(1996)の入力作業
発行費用	250,000	2号分 (No.12-13:95-96) の買取費用
郵送料	52,000	上記2号分 (委託送付)
研究会運営費用	70,000	
研究集会・総会	50,000	第13回セミナー (大阪)
研究例会	20,000	数回程度
積立金	300,000	20周年記念事業準備金 (1982-2002)
予備費	211,661	
合計	1,093,661円	

◇ 1996年度の活動計画 (案)、予算 (案) について、上記のとおり承認された。

3. 会の英文略称について

会の英文略称：JALIH。ニューズレター55号 (96.2.15) に掲載した内容 (中間発表) と同様。

4. 機関誌の発行および機関誌名について

上記ニューズレターに中間発表のとおり、『図書館文化史研究』が13号以降の誌名として適用されることになった (表紙のデザインは運営委員会に一任)。なお、発行については日外アソシエーツと協議中であることが報告された。

5. 20周年記念事業について

本年度予算案に計上した「積立金30万円」は、20周年記念事業準備金とするよう提案。実行計画について会員から質問があり、出版物、研究集会などを想定している旨回答、総会の了承を得た。

報告事項

①『図書館史研究』デジタル化について

図書館情報大学から、『図書館史研究』デジタル化について許可申請があった。当面、「学内限り」の利用とすることで了承された。

②会費納入状況について

<議案1> 「1995年度活動報告」を参照のこと。

③当会刊行物の寄贈先について

当会刊行物の寄贈先として、以下を報告、了承を得た。

『図書館 (文化) 史研究』 (2機関)

国立国会図書館 (NDL)、日本図書館協会 (JLA)

『ニューズレター』 (7機関)

NDL、JLA、都立中央図書館、図書館情報大学附属図書館、大阪府立中之島図書館、京都府立総合資料館、日外アソシエーツ

④来年度研究集会のもち方について

運営委員会に一任された。

⑤その他

原稿募集

- ◇ 『図書館文化史研究』14号(1997年9月刊行予定)の原稿を募集します。原稿の締切は97年3月末日です。投稿を予定される方は、年内に下記までご一報下さい。折り返し「投稿規定・執筆要項」をお送りします。

問い合わせ、ならびに原稿の送付先

小黒浩司

- ◇ 「ニューズレター」の原稿も募集しています。研究に関する情報、書評なんでも結構です。(できるだけワープロで、MS-DOS標準テキストの原稿を)事務局あてお送りください。

新入会員

* /

*

退会

*は再入会

会員名簿訂正

研究例会のお知らせ

第3回

日時：1996年9月28日（土）午後1時から

場所：法政大学 69年館 5F 951教室

発表：大庭一郎（図書館情報大学）：“実践的な情報入手の技法”について記した
図書の現状及び問題点：図書館利用教育支援の側面から

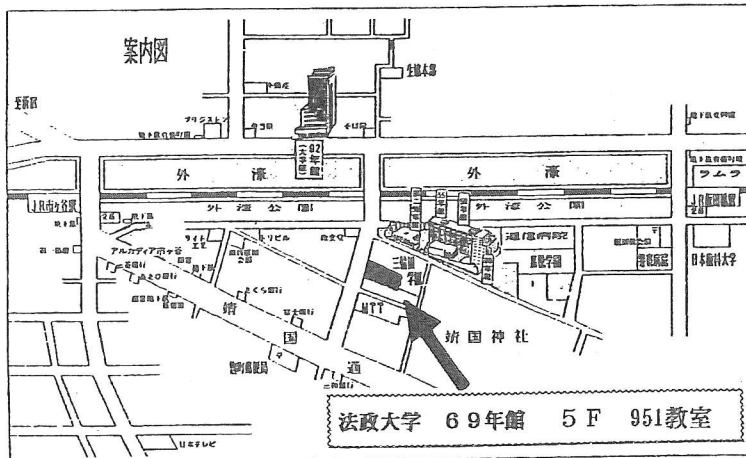
横山道子（神奈川県立外語短期大学図書館）：CIEと戦後日本の図書館
法制

今後の予定

第4回 1996年12月21日（土） 国立国会図書館（予定）

◇ 1997年3月 未定

* 例会の発表者を募集しています。質疑を含めて40分程度です。中間報告的なもの、
情報交流（提供）などでも結構です。申し込みは事務局まで。



日本図書館文化史研究会 事務局 中林隆明